

「肝腫瘍の造影ハーモニクイメージング」

工藤 正俊 著

久留米大学医学部教授・病理学

神 代 正 道

肝癌診断・治療の目覚ましい進歩は、各種画像診断の発展・普及によることは論を待たない。本書は、導入されて2年に満たない最先端の肝画像診断法である造影ハーモニクイメージングのすべてについて述べたものであり、これから本法を始めようとする人、既に用いている人、さらには肝臓に興味を持つ病理医にとっても、肝の結節性病変を血流動態から理解するのに欠かせない書と言える。

著者の工藤正俊氏は京都大学医学部を卒業後、早くに象牙の塔を離れ医療の最前線で数多くの肝癌患者の診断・治療に当たる一方、CO₂ 造影超音波やカラードプラーにより早期肝癌の血流動態について多くの新知見を内外に明らかにし、肝癌の早期診断に多大の貢献をしている。著者は近畿大学に head hunting され、わずか2年の短期間でゼロからスタートした教室を有数の消化器内科教室に築き上げ、さらに超多忙にもかかわらず本書を上梓されたことで、筆者は改めて著者への畏敬の念を強くしている。本書の強みは、多くの生検例や切除例の検討に基づいた著者の肝結節性病変、特に早期肝癌や境界病変の組織形態についての正確

で豊富な知識と、それらの画像診断によるダイナミックな血流動態についての evidence の積み重ねにある。そのことが、著者が動注造影エコー法を肝結節性病変の画像診断の gold standard とみなす信念の裏付けともなっている。

本書の内容についてみると、造影ハーモニクイメージングの各論に入る前に、造影エコー法についての著者の信念、動注造影エコーによる各種結節性病変の基本的な血流動態、肝癌の発生・進展過程と血流動態、さらに著者の血流診断についての信念を述べ、本書が単なる画像診断法の解説書ではないことを明らかにしている。各論では最初に、造影ハーモニクイメージング法の造影剤の基礎、投与法と各種造影モード、ハーモニクイメージングの用語解説、同法の原理が述べられ、これから本法を始める人あるいは初心者にとって極めてわかりやすい導入部となっている。次いでハーモニクパワードプラー、コントラストイメージング、pulse inversion harmonic imaging、coded harmonic angiography などの各法の原理、使用上のコツとポイント、症例提示による解説、さらに本書の主体をなす造影ハーモ

ニックイメージングによる各種肝結節性病変の鑑別は実用的であり、現在すでに本法を用いて診断に従事している人に多くの情報、ヒントを与えるものである。さらに現在主としてダイナミック CT、あるいは MRI に拠っている肝癌の治療効果判定、特に Lipiodol TAE 後の効果判定における造影ハーモニクイメージングの有効性に触れ、近い将来、本法がダイナミック CT、MRI に取って代わることを予言している。また、本法誘導のもと肝癌組織内の血流評価を正確に行うことによって、より効果的な穿刺治療が可能になることを述べている。最後に、本法が肝臓のみならず、胆嚢および膵臓の腫瘍診断にも応用可能なことを示唆して本書を締めくくっている。

今後、造影ハーモニクイメージング法は、新たな造影剤の開発や機器の改良により、さらに大きく発展することは間違いなく、本書は肝腫瘍診断に携わる者にとって必携の書となるであろう。

● B5 頁 224 図 43 写真 696
カラー写真 185 表 13 2001
定価(本体 12,000 円 + 税) 送料実
費

医学書院 刊(☎ 03-3817-5657)